

平成19年度体育専門学群における授業評価結果

井村 仁・真田 久・佐野 淳・西保 岳・長谷川悦示
鍋倉賢治・内山治樹・澤江幸則¹

1. はじめに

体育専門学群における授業評価は、平成17年度から開始され、過去2回大型の講義授業を対象に実施されてきた。今年度は、実技授業を対象に授業評価を実施したので、これまでの評価結果と比較しながら今後の展望について報告する。

2. 授業評価実施要項

平成19年度の体育専門学群授業評価は、以下の実施要項に基づいて行われた。

- 1) 目的: 体育専門学群の授業を改善するために、学生による授業評価を実施する。
- 2) 対象科目: 専門基礎科目、実技理論・実習Ⅰとして2学期に開講されている科目、26科目18種目を対象とした。

表1 授業評価対象科目一覧

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜日	時限
W910115	体操	1	1	1・2	水	1
W910125	体操	1	1	1・2	水	2
W910215	舞踊	1	1	1・2	水	1
W910225	舞踊	1	1	1・2	水	2
W920315	陸上競技	1	1	1・2	水	1
W920415	器械運動	1	1	1・2	水	1
W930535	水泳競技	1	1	2	金	1・2
W930635	野外運動	1	1	2	金	1・2
W940715	バレーボール	1	2	2	水	1・2
W940735	バレーボール	1	1	2	金	1・2
W940815	バスケットボール	1	2	2	水	1・2
W940835	バスケットボール	1	1	2	金	1・2
W940915	ハンドボール	1	2	2	水	1・2
W940935	ハンドボール	1	1	2	金	1・2
W951025	サッカー	1	2	2	水	1・2
W951125	ラグビー	1	2	2	水	1・2
W961225	テニス	1	3	2	水	1・2
W961325	バドミントン	1	3	2	水	1・2
W961425	卓球	1	3	2	水	1・2
W961525	ソフトボール	1	3	2	水	1・2
W971615	柔道	1	1	1・2	水	1
W971625	柔道	1	1	1・2	水	2
W971715	剣道	1	1	1・2	水	1
W971725	剣道	1	1	1・2	水	2
W971815	弓道	1	1	1・2	水	1
W971825	弓道	1	1	1・2	水	2

- 3) 設問項目：設問は、過去2回の授業評価内容を参考にし、以下のように、学生の自己評価と教員の授業評価、および実技理論・実習全体に関する評価を設定した。

○調査項目内容

I 学生の自己評価 * () 内の記述は、5段階評価の5を示す。

- 1) 出・欠席 (全部出席)
- 2) シラバス (全部読んだ)
- 3) 授業への取り組み (非常に積極的)
- 4) 内容理解度 (非常に良く理解)
- 5) 満足度 (非常に満足)
- 6) 実技技能の到達度 (非常に良く身につけている)

II 授業評価 * 「とてもそう思う」から「まったく思わない」の6段階評価である

II-1. 授業の運営や指導法について

1. 授業に計画性が見られた (シラバスを含めて)
2. 授業の難易度レベルの設定が適切であった。
3. 教員の教え方が上手で、内容が理解しやすかった。
4. 施設や用具は適切であった。
5. 教員は、授業に関わる十分な知識と高度な専門性を備えていた。
6. 教員の授業運営に熱意や工夫が感じられた。
7. 教員と学生のコミュニケーションがあった。
8. 成績の評価法は妥当であった。
9. 授業の運営や指導法についての自由記述

II-2. 授業の内容や効果について

1. 学生相互のコミュニケーションがとれた。
2. 当該スポーツ・運動の技能向上に役立った。
3. 当該スポーツ・運動の指導能力の向上に役立った。
4. 当該スポーツ・運動への興味関心(やること、見ること、読むこと、など)が高まった。
5. 当該スポーツ・運動の文化的側面(歴史・ルール・マナー・用具・技術の変遷・その他社会的背景など)に触れることができた。
6. 当該スポーツ・運動の知識や理論(健康・体力について、技能修得について、スポーツの楽しみ方についてなど)が理解できた。
7. 当該スポーツ・運動における練習方法やトレーニング方法の発見に役立った。

8. 授業の内容や効果についての自由記述

III. 実技授業全般について

1. 開設している実技種目の他にもっと多様な実技種類を開設してほしい。
2. 科目選択の際、第1希望を受講できるようにしてほしい。
3. もっと高度な実技内容を学習できる科目を開設してほしい。
4. もっと高度な指導法を学習できる科目を開設してほしい。
5. 実技授業全般についての希望や意見などがありましたら、自由に書いてください。

- 4) 実施時期：平成19年11月7日(水)～11月21日(水)

- 5) 調査の手順・調査票の集計：TAもしくは短期雇用者が授業評価の実務を行い、実施は授業の終わり10分間程度を使用して行う。評価実施中、教員は教室から退席もしくは屋外の場合は実施場所から離れることとし、TAもしくは短期雇用者が調査用紙の配布・説明・回収を行い、記入済み調査票を事務へ持参する。回収された調査票はFD委員会委員長がとりまとめて入力業者に納入され処理(個人、全体のデータ分析)する。

- 6) 結果の分析：全体結果の分析はFD委員会が行い、学外への公表は筑波大学体育科学系紀要、報告書などを通じて行うと共に、個人の授業評価結果に関しては、学群長と当該授業担当の教員に知らせる。また、全体の調査結果は学群長が保管・管理する。

- 7) 結果の利用および改善：個別の授業については当該教員が対応し、学群教育全体に関わる事項に関しては、学群教育計画・評価委員会、教育課程委員会等の当該機関で対応する。
- 8) 実施への周知・協力：教員会議にて審議の上、実施を決定すると共に、学生に周知する。

3. 授業評価の結果

表2に示すように、総回答者数は806名で、その内訳は1年次生532名(66.0%)、2年次生179名(22.2%)、3年次生95名(11.8%)であった。

表 2 延べ回答者の内訳

学年	人数	%
1 年次生	532	66.0
2 年次生	179	22.2
3 年次生	95	11.8
合計	806	100.0

3-1. 学生の自己評価について

表 3～表 5 は、全体の集計結果を示したものである。表 3 は学生の自己評価に関する結果であり、過去 2 回講義授業を対象に実施した設問と比較検討するため、最後の項目「実技到達度」を除いて、同じ内容で調査を実施した（5 段階評価）。その結果、講義系授業と大きく異なった項目は「授業への

取り組み」（m=4.30）「内容理解度」（m=4.23）「満足度」（m=4.36）の 3 項目であり、0.83 から 0.92 の範囲でどれも講義系授業よりも高い値を示した。この結果は、体育専門学群所属学生を対象とした調査であり、実技に関しては元々高い興味・関心があることや、今回の調査対象のほぼ 7 割が 1 年次生であり、過去 2 回の調査対象と比較して 2・3 年次生が少なく、1 年次生が初めての授業評価であったことから高く評価する傾向があったこととも考えられる。一方「シラバス」に関しては、講義系授業と同様に 2.05 と低い点であり、あまり活用されていないことが明らかになった。学生にとって利用しやすいシラバスづくりが必要と考えられる。

表 3 学生の自己評価

評価内容	出欠	シラバス	取り組み	理解度	満足度	実技到達度
設問番号	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6
平均	4.38	2.05	4.30	4.23	4.36	4.00
最小値	3.92	1.45	3.77	3.73	3.79	3.66
最大値	5.00	3.50	5.00	4.69	4.88	4.56
平成 18 年度	4.24	2.12	3.47	3.32	3.47	
平成 17 年度	4.23	2.05	3.47	3.35	3.44	

*平成 17・18 年度は、体育専門学群開講専門基礎科目および専門科目の講義科目が評価対象である。

表 4-1 授業評価：授業の運営や指導法について

評価内容	計画性	難易度	教え方	施設用具	専門性	熱意	教員と学生	成績評価
設問番号	2-1-1	2-1-2	2-1-3	2-1-4	2-1-5	2-1-6	2-1-7	2-1-8
平均	5.1	5.0	5.2	5.3	5.7	5.3	5.3	5.1
最小値	4.2	4.5	4.7	3.9	5.1	4.5	4.0	4.5
最大値	5.8	5.6	5.8	5.8	6.0	6.0	6.0	5.8
2002 年度	4.7	4.9	5.0	5.1	5.5	5.2	5.1	5.2
2003 年度	4.9	5.0	5.2	5.2	5.6	5.3	5.3	5.3

表 4-2 授業評価：授業の内容や効果について

評価内容	学生間	技能向上	指導力向上	興味関心	運動文化	知識理論	練習法
設問番号	2-2-1	2-2-2	2-2-3	2-2-4	2-2-5	2-2-6	2-2-7
平均	5.3	5.2	5.1	5.2	4.8	5.0	4.8
最小値	4.5	4.7	4.4	4.0	4.0	4.5	4.0
最大値	6.0	5.9	6.0	5.9	5.8	5.8	5.6
2002 年度	4.5	4.4		4.5	4.2	4.4	
2003 年度	4.6	4.6		4.8	4.5	4.6	

*2002・2003 年度のデータは、体育センターが共通科目「体育」のうち通年で行われる必修単位科目受講生全員を対象に実施したものである。

3-2. 教員への授業評価について

次に、教員への授業評価については、過去の授業評価と異なりかなり詳細な設問とすると共に、体育センターで実施された授業評価と比較検討できるように6段階評価で実施した（講義系授業の評価は5段階で実施されていた）。体育センターでは、共通科目「体育」のうち通年で行われる必修単位科目受講者全員を対象に授業評価を実施して

おり、2002年度は3780名、2003年度は3520名から回答を得ている。

授業評価全体の結果を見ると、6段階評価で平均値が4.8～5.7とかなり高い値を示しており、学生により実技授業が高く評価されていることが示された。特に評価の高かった項目は「専門性」（「教員は、授業に関わる十分な知識と高度な専門性を備えていた。」）であり、5.7（最小値 5.1、最大値

表5 実技授業全般について

評価内容	多様な実技	第1希望	高度内容	指導法
設問番号	3-1	3-2	3-3	3-4
平均	4.3	5.3	4.2	4.4
最小値	3.8	4.8	3.0	3.8
最大値	5.1	6.0	4.9	4.9

表6 実技授業全般に関する自由記述の主な内容

授業時間数増加	もっと実技の授業時間数を増やしてほしいです。2学期だけではなくもっとやりたかった。
授業時間数増加	実技授業の数を増やしてほしい。
授業時間数増加	実技授業の数を増やしてほしい。
授業時間数増加	実技授業をもっと増やして欲しい。同じ球技の時間でやりたい種目が2種目ある場合、2学年でも球技の授業があれば今度はそっちをとるのに…と思います。（例：今、ハンド。でもバスケもやりたい）サッカーやラグビーはまた別にやりたい。
授業時間数増加	全実技種目をやらせて欲しい。
授業時間数増加	カテゴリー内に複数希望したい場合、なかなか取れる状況がないのでそこを工夫したらいいと思う。
授業時間数増加	もっと球技種目が多くできるようにしてほしい。バレー、バスケ、ハンド、サッカー、ラグビー、の選択じゃなくて、球技の中から自由に選択できるようにしてほしい
授業時間数増加	大学の授業だけでは経験できない実技もでてきてしまうので全部経験できるように授業の組み方をすると良と思う。
多様な種目	いろんな種目がやりたい。週3ぐらいほしい。
多様な種目	もう少したくさん種類の実技がしたい
多様な種目	もっと色々なスポーツを体験してみたい（選択では体験したことのないスポーツができてしまう）
多様な種目	もっと多種多様な種目ができたらいいと思う
多様な種目	もっと幅広い選択肢があっても…
多様な種目	もっと幅広くスポーツに触れてみたい
多様な種目	実技の種類を増してほしい。
指導法	高度な指導法を学習できるようになってほしいが、実技の授業をするにあたり、学生のつかみなどをもっとうまくやってもらいたい。（実技授業の多くはできていない）その点、卓球の授業は、生徒のつかみなどがしっかりできていた。
指導法	指導に役立つ実技授業をより充実させてほしい。
指導法	指導法の解説、特に能力の低い生徒への指導法を詳しく学びたい。
指導法	指導法をしっかり学ぶ場がほしい。
指導法	指導法をもっと学習したい。
指導法	指導法を教える授業はもう少しほしいと思う。

6.0)であった。学生の入学動機の1つに「優秀な教授陣がそろった筑波大学で学びたい」というものがあるが、実際に授業を受けてみて教授陣の専門性を高く評価していることが分かる。逆に、相対的に評価が低かった項目は、「運動文化」(「当該スポーツ・運動の文化的側面(歴史・ルール・マナー・用具・技術の変遷・その他社会的背景など)に触れることができた。」「練習法」(「当該スポーツ・運動における練習方法やトレーニング方法の発見に役立った。」)の2項目で、平均値が4.8であった。絶対的評価では決して低い値ではないが、相対的に低かった理由としては、授業時間数の短さがあると考えられる。体育専門学群の実技授業は通年の授業ではなく、2限続きの授業であれば1学期間で終了してしまう。そのため多くの内容を盛り込むことが物理的に不可能であることと、より専門的な実技内容に関しては3年次以降の卒業研究領域で学習するため限度があるものと考えられる。

次に一般学生を対象とした体育センターの結果を設問内容が共通する13の項目で比較すると、「難易度」(「授業の難易度レベルの設定が適切であった。」「教え方」(「教員の教え方が上手で、内容が理解しやすかった。」「施設用具」(「施設や用具は適切であった。」「専門性」「熱意」(「教員の授業運営に熱意や工夫が感じられた。」「教員と学生」(「教員と学生のコミュニケーションがあった。」「成績評価」(学群「成績の評価法は妥当であった。」「センター」(「成績の評価法は公平かつフェアであった。」)の7項目にはほとんど差がみられなかった。これらほとんど差のみられなかった項目は、授業の運営や指導法に関する項目であり、体育専攻学生や一般学生に関係なく、実技授業を担当する教員が一定レベル以上の能力を有していることを示しているものと考えられる。

さらに、学群と体育センター間で特に差が大きかった項目は、「学生間」(「学生相互のコミュニケーションがとれた。」「技能向上」(「スポーツ・運動の技能向上に役立った。」)の2項目であった。一般的に、体育専門学群生は自分が所属する運動クラブの仲間と行動を共にすることが多く、他のクラブの学生と共に一緒に運動をする機会が少ないため、「学生相互のコミュニケーションがとれた。」を高く評価していたと考えられる。また、「スポーツ・運動の技能向上に役立った。」に関し

ては、体育専門学群生としての専門性の1つに実技能力が十分身につけていることが必要とされるが、学生自身もその意識が高いために積極的に授業参加をしていた成果とも考えられる。

3-3. 実技授業全般について

実技授業全般についての評価は、以下の項目について「とてもそう思う」が最高の6点で、「まったく思わない」が1点の配点になっている。従って得点が高いほど現状に満足していないことを示している。

- ・3-1「多様な実技」(「開設している実技種目の他にもっと多様な実技種類を開設してほしい。」)
- ・3-2「第1希望」(「科目選択の際、第1希望を受講できるようにしてほしい。」)
- ・3-3「高度内容」(「もっと高度な実技内容を学習できる科目を開設してほしい。」)
- ・3-4「指導法」(「もっと高度な指導法を学習できる科目を開設してほしい。」)

最も不満が高かった項目は、「第1希望」(「科目選択の際、第1希望を受講できるようにしてほしい。」)で平均値が5.3であった。他の3項目はほぼ同じような値で、「第1希望」の評価よりも約1.0低い値であった。現在行われている科目選択の方法は、事前に授業担当教員に最大(最低)受講可能人数を確認しておいて、4月のガイダンス時に希望調査を行い調整している。実技授業の場合、1学年を男子2グループ、女子1グループの計3グループを単位にしているため、1グループ80名程度となり、その1グループの学生を2科目の実技授業に振り分ける。第1希望通りにすると、10名と70名のクラスができたりして授業運営上支障を来すことがある。そのため第1希望の科目を選択できない場合が出てきている。以前よりこの問題は学生から指摘されていることであるが、カリキュラム構成上なかなか改善されないのが実状である。

実技授業全般に関する自由記述の内容を見てみると、全般に関する事柄について記載していたものが92名おり、その中で内容が重複して意見が多かったものは以下のような内容であった。

4. 今後の課題

過去2回実施された講義科目を対象とした授業評価結果に基づく今後の課題としては、1)シラバ

スの活用法、2) 学習環境の整備、3) 授業評価実施科目を増やす必要性、4) 授業評価の結果活用法、の4点が挙げられていた。今年度は実技科目を対象に授業評価を実施したことから、今までと異なる課題も見いだすことができた。まず共通する課題としては、シラバスの活用が挙げられる。シラバスの見やすさや内容の充実も必要なことではあるが、実技科目の場合第1希望の科目を受講できないなど、シラバスを活用して科目選択を行う以前の問題があるため、このような点の改善を検討していく必要がある。また、実技授業時間数を増やし、より多くの運動種目を学習したい、指導法についても学習したい等の希望も多くみられたことから、実技のカリキュラムの在り方自体についても検討する必要がある。

講義科目で挙げられていた「学習環境の整備」という課題に関しては、実技科目では特に問題となっていない。しかしながら、各運動施設とも老朽化が目立つようになってきていることか

ら早めの対策を検討しなければ今後課題の1つになる可能性はあると思われる。

「授業評価実施科目を増やす必要性」、「授業評価の結果活用法」という課題に関しては、体育専門学群で開講している授業科目全てを対象にした授業評価を実施した後、その結果を関係機関で検討し、計画的な活用法を講ずることが必要と思われる。

参考文献

1. 近藤良亨、長谷川悦示 (2006) 平成 17 年度体育専門学群における授業評価結果と今後の課題、筑波大学体育科学系紀要、29 : 97-102.
2. 近藤良亨、西保岳 (2007) 平成 18 年度体育専門学群における授業評価結果、筑波大学体育科学系紀要、30 : 175-178.
3. 橋直隆 (2005) 2002 年度・2003 年度学生による授業評価の報告、大学体育研究、27 : 77-85.

表7 授業評価結果一覧：科目・設問別平均評価

No.	全体平均 順位 No.	自己評価 順位	授業評価 順位	全体合計 平均	自己評価 平均	授業評価 平均	実技全般 平均
1	1	2	1	5.36	4.29	5.82	5.22
2	2	3	2	5.23	4.17	5.74	4.87
3	3	4	3	5.06	4.10	5.57	4.60
4	4	6	5	4.99	4.06	5.45	4.62
5	5	16	6	4.90	3.77	5.38	4.76
6	6	13	7	4.89	3.87	5.37	4.63
7	7	15	4	4.88	3.83	5.52	4.08
8	8	5	8	4.86	4.09	5.22	4.65
9	9	9	10	4.79	4.01	5.19	4.44
10	10	10	19	4.71	3.98	4.94	4.94
11	11	11	11	4.71	3.98	5.08	4.40
12	12	12	15	4.69	3.95	5.03	4.55
13	13	7	17	4.69	4.03	4.97	4.65
14	14	24	9	4.68	3.61	5.20	4.35
15	15	1	22	4.64	4.42	4.90	4.00
16	16	14	14	4.64	3.86	5.06	4.24
17	17	23	16	4.64	3.62	4.99	4.85
18	18	8	21	4.63	4.01	4.94	4.38
19	19	22	13	4.61	3.67	5.08	4.26
20	20	18	18	4.60	3.72	4.96	4.57
21	21	25	12	4.60	3.60	5.08	4.27
22	22	19	20	4.58	3.72	4.94	4.53
23	23	20	25	4.50	3.72	4.80	4.56
24	24	21	23	4.49	3.71	4.87	4.28
25	25	17	24	4.48	3.73	4.83	4.30
26	26	26	26	4.45	3.60	4.80	4.44